

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿 6月8日（金）放送分

テーマ「奄美歳時記」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。県立奄美図書館です。今週のこの時間は，今年度第3回目の，シリーズ「奄美歳時記^{さいじき}」をお送りします。

奄美大島は，梅雨まっさかりです。そんな中で，奄美の景色を盛り上げているのが，色とりどりの花です。空はどんよりとした日が多いのですが，花のおかげで，赤・ピンク・黄色・白などの色彩を楽しめます。

県立奄美図書館でも，イジュの花が咲いたり，インドソケイに蕾がついたりして，梅雨^{うつつ}の鬱陶^{うつとう}しい気持ちを軽くしてくれています。

イジュについて，大野隼夫^{おおの はやお}さんの著書「奄美の四季と植物考」には，次のように記されています。

「ツバキ科には奄美とつながりの深い特筆されるべき樹木がある。方言でイジュ（奄美），イジュ（徳之島），イジュー（奄美，徳之島，沖永良部），イジュキ（沖永良部）と呼ばれ，古来，奄美独特の建物である高倉^{ちやうよう}の柱や，建築材（ひきもの），あるいはくり舟材として重^{ぎよく}用された樹木である。また樹皮を魚毒^{いりおもて}として用いた。奄美を北限とし，徳之島，沖永良部，沖縄，久米，石垣，西表^{さいへ}の限られた地域に産する固有植物である。和名イジュは方言から由来したことはいうまでもない。（後略）」

奄美大島には，多くの固有種の植物が見られます。4月初めの新聞でも，「奄美大島の森でアマミエビネが咲き出した。白色や紫色を帯びたかれんな花が林床を彩り、ひっそりと春本番を告げている。同島固有のラン。相次ぐ盗掘などで年々姿を消し、絶滅寸前になっている。（後略）（4月5日付 南海日日新聞）」という記事が掲載されました。

山下弘さんの著書「奄美の絶滅危惧植物」の中で，奄美エビネは「奄美大島ではかつて標高300m以上の林床でごく普通に見られたが，園芸採取などにより絶滅寸前となった。」と記されています。山下さんは，著書の「はじめに」で，「2000年発行の環境省『植物レッドデータブック』では実に多くの絶滅危惧植物が奄美諸島に分布していることが明らかになりました。その内訳は『絶滅』3種，『野生絶滅』1種，『絶滅危惧』180種，『準絶滅危惧』29種となっており，これらをあわせると奄美諸島の野生植物の約16%が絶滅危惧種に指定されたことになります。これらの絶滅危惧種の中には，ア

マミアワゴケやアマミカジカエデのように近年になって発見された植物や、ウケユリやアマミセイシカなどのように園芸価値の高い植物が含まれています。一般に奄美諸島のよう^{とうしよ}な島嶼は植物一種ごとの集^{そんりつ}団数や個体数が少なく、気候変動や人為的な開発の影響を受けやすいなど、種としての存^{ぞんりつ}立^{ざいじやく}がきわめて脆弱であるといわれています。加えて近年の過剰な開発は、奄美諸島の多様な植物たちを短期間に絶滅に追い込んだのです。」と記しています。

また、大野隼夫さんは、「奄美の四季と植物考」のはじめで、「郷土の貴重な固有植物がその自生地から姿を消した。(中略)郷土のシンボルともいべきこれらの貴重な植物が自生地からことごとく奪い去られるということは、生態的にはその種族の滅亡を意味する痛恨事であり、最悪の形の自然破壊であると断じざるをえないのである。郷土の人々が郷土の自然を知り、郷土の自然を愛する心に目覚めるなら、このようなことはおそらくあり得ないことだろう。『自然の保護』という言葉が叫ばれて久しい。この言葉の意義は広範で各地域に即したものでなければならぬだろう。とくに貴重な動植物の生息地である私達の郷土、奄美においては、これらの生物相の探究がもっとも先立つことではないだろうか。地すなわち愛、愛着は知ることによってはじまるといわれる。(中略)郷土の自然に限りない愛着を抱く者の一人として、郷土の植物を通じて、比類ない奄美の自然の保護を訴えたい念願に他ならない。この書が奄美の植物を知るためのよすがともなり、ひいては奄美の自然の保護へのいざないともなればこの上ない幸いなことである。」と述べています。

奄美大島は目に映る自然がすべて新鮮で、野山の植物がとても輝いて見えます。そして、その植物の名前を知ろうと図鑑等を調べると、比較的身近な場所で、貴重な植物がひっそりと根をはっていることに驚かされます。

大野隼夫さんは、「愛着は知ることによってはじまるといわれる。」と書かれています。が、奄美大島に住み、奄美大島の自然を愛する私たちは、その植物についてどれほどのことを知っているのでしょうか。そして、そのすばらしさを多くの人に伝え、保護することができているのでしょうか。身近にある自然について、もう一度「知る」ことから始めてみませんか。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。